

## ＜別紙 3＞ 具体的施策案の詳細について

### ①キッズ・ユースフットボールリーグ・チームの立ち上げ支援

ノウハウの提供及び防具の貸し出しを行うなどの援助を行うとともに、フラッグフットボールと連携し、広く競技人口を拡大する。

### ②指導者育成プログラムの実施

- ・ AFCA を参考にしつつ、USA FOOTBALL との提携によるマニュアルを作成する。※現在まずはコーチズハンドブックの日本語訳を作成中（⑥にも関連）
- ・ ND大ほかの有名大のクリニックへの参加支援
- ・ 長期的には指導者ライセンス制を採用するが当面は指導者クリニックの中身をより充実させ、各地域、各レベルに周知せしめる

### ③日本代表チームほかの強化

IFAF 主催の WC、JWC に参加するほか、WC の中間年（2009、2013 年など）には必ず強化につながる国際マッチを企画する。※なお、これに関連して U-23、すなわち大学生の国際マッチも今後の検討課題とする。

	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
フル代表	WC		NDJB		WC		TestM		WC
U-19		GCB	JWC GCB	GCB	GCB	JWC GCB	GCB	JWC GCB	GCB
U-23 等				候補			候補		

※ WC は IFAF 世界選手権、JWC は IFAF ジュニア世界選手権

※ JWC は 2 年に一度の予定。ただし、2011 年のみ WC と重なるため前後どちらかへ変更予定。

※ NDJB は ノートルダム・ジャパン・ボウル。TestM は 何らかの強化試合

※ GCB は グローバル・チャレンジ・ボウル。U-19 のカテゴリーに関しては毎年何かしらのテストマッチを実施。

※ U-23 など他のカテゴリーについては IFAF 主催ゲームが開催されない時に実施したいと考える

#### ④エリート育成プログラムの実施

USA FOOTBALL や NFL ジャパンと連携してNFL選手の輩出を図る。これについては広報的なことも重要であり、その観点からの活動も考慮する。

#### ⑤試合環境（特に競技場）の環境整備

スポーツ振興を行政の柱の一つに据える自治体と特に密接に連携して環境確保に努め、近い将来（準）専用グラウンドを確保する。

なお、これに関しては現状からしてまず川崎市との提携を一層深め、その成果を出し、それを良きモデルとして全国に展開することが考えられよう。

#### ⑥安全指導の一層の推進

各課題の中でも最重要課題の一つに位置づけ、すでに安全指導推進協議会を立ち上げて活動に入ったところであるが、指導者、トレーナー、医者、審判それぞれが参画して行うものであり、本年2月28日及び3月14日にコンベンションを立ち上げることを企画中、また単にこれだけでなく、安全指導を継続的に推進していくべく関係者で協議していく。

#### ⑦審判関連の人材の育成

ファンの支持を得ていくには審判関連の人材の確保・育成は必須であり、今後の国際試合の増加をも考慮し、それに耐えうる人材の育成にこれまで以上に注力する。

#### ⑧ファン拡大に向けた各種施策の実施

広報活動やホームページの充実、さらには一般学生の動員施策など、さまざまな活動を展開していく。

本年開催のノートルダム・ジャパン・ボウルは特にフットボールファン拡大のチャンスととらえ、関係者一同周辺に働き掛けを行う。

#### ⑨専任マネジメント体制の確立

上記活動を支える専任マネジメント体制は必須と考え、本格始動に向けて協会内で調整を図り、体制作りに取り組むこととする。